

## 大分市総合計画検討委員会 第3回 産業部会 議事録

◆ 日 時 平成27年10月13日(火) 9:30～11:30

◆ 場 所 大分市役所本庁舎 8階 大会議室

◆ 出席者

### 【委員】

矢野 利幸 部会長、岡野 祐介 副部会長、安部 英助 委員、磯田 満 委員、坂井 伊智郎 委員、佐藤 泰副 委員、園田 孝吉 委員、高倉 大暉 委員、早瀬 康信 委員、松尾 竜二 委員、吉岩 寿和 委員(計11名)

### 【事務局】

企画課 参事補 雨川 陽之、同主任 大野 洋造(計2名)

### 【プロジェクトチーム】

産業振興課 参事補 朝見 哲也、農林水産課 専門員 末光 誠太、商工労政課 主任 安部 順司、観光課 主事 佐藤 優介(計4名)

### 【オブザーバー】

農林水産課、商工労政課、公設地方卸売市場

### 【傍聴者】

なし

◆ 次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1)素案について

①「農業の振興」について

②「商業・サービス業の振興」について

③「流通拠点の充実」について

(2)その他(次回の日程等)

### <第3回 産業部会>

事務局	<p>おはようございます。本日もよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから、大分市総合計画検討委員会第3回産業部会を開催いたします。</p> <p>なお、本日、井上委員さん、荻本委員さんからご欠席のご連絡をいただいております。ご報告させていただきます。</p> <p>本日、本部会を円滑に進行するため、関係課の職員も同席させていただいております。協議内容に応じまして、補足説明等を行なってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、まず資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日の次第と席次表をお配りしております。また、先日の第2回産業部会にご欠席の委員様におかれましては、先日お配りした資料も配付させていただいております。</p> <p>会議に先立ちまして、1点、事務局からの連絡がございます。</p> <p>先日の第2回産業部会にて委員の皆様からいただきました意見を取りまとめまして、市の考え方について整理を現在しておりますが、調整に時間がかかっておりまして、次回以降の部会にてご報告をさせていただきたいと考えております。前回の意見につきましては、今回、取りまとめを行うとご説明いたしましたが、予定の変更となり、大変申し訳ございません。</p> <p>それでは、本日の次第に従いまして進行させていただきたいと思ひます。</p> <p>早速、2番の議事に入らせていただきたいと思います。議事の進行につきましては、検討委員会設置要綱第7条第4項により、部会長が行うこととなっておりますので、部会長にお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p>
部会長	<p>皆さん、おはようございます。早朝からお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日もよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは、早速ですけれども、次第に従いまして議事の進行をしていきたいと思ひます。</p> <p>まず、1番の素案についてでございます。農業の振興について、事務局から説明をお願ひいたします。その後、皆さん方からご質問・ご意見をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>それでは、第2節、農業の振興についてご説明させていただきます。座ってご説明させていただきます。</p> <p>まず、本市の農業の特徴について簡単にご説明申し上げます。</p> <p>本市におきましては、平野部、中山間部の広い範囲にわたって水稻・野菜・果樹・畜産などの多彩な農業が営まれ、中でも施設園芸や酪農などは法人化による大規模な企業的経営が行われています。</p> <p>参考資料の第2節、農業の振興の1ページ目をお願ひいたします。</p> <p>本市の主要品目の生産状況についてまとめております。本資料は、品目ごとの作付面積、年間産出量及び産出額、農家戸数、平均収入額及び主な生産地を整理した資料とな</p>

っています。まずは、資料上段の1 水稻・野菜についてごらんください。

左から2 番目の欄の作付面積を見ますと、水稻が1, 6 2 3ヘクタールと面積は突出していますが、農家1 戸当たりの平均収入は3 0万円となっています。直近の米の価格は平成2 5年産米が1 万1, 5 4 0円、平成2 6年産は8, 7 0 0円で、大きな下落が見られます。以上のことから、兼業農家が主体ではありますが、米農家の経営は非常に苦しい状況であると考えられます。

同じように、ニラ以降の野菜の平均収入額について見ていきますと、大葉の1 億1, 8 0 0万円を筆頭に、ばらつきはあるものの、水稻と比較して一定の収入を上げていることが読み取れます。

ただし、収入の高いオオバやミツバ、水耕セリにつきましては、備考欄にございますとおり、設備に関する初期投資額が大きいことから、新規に農業を始める方には取り組みにくい品目であると考えております。

次に、畜産について見ますと、乳用牛や豚、採卵鶏など収入が多いものもございますが、こちらでも設備に関する初期投資額が大きく、なおかつ、現在、家畜の飼料の購入費用が高く、思うように収益が上がらない現状となっています。

また、参考資料の下段の経営耕地面積と農業就業人口推移のグラフをごらんください。農業就業人口の減少に比例して、経営耕地面積も減少しています。

続きまして、資料2 ページの上段のグラフをごらんください。

年齢構成の比率をあらわしたグラフですけれども、左から国、県、市となっております。大分市は、国、県と比べて高齢化が進んでいることがわかると思います。

続きまして、現計画の総括評価につきましてご説明いたします。前回お配りした資料の平成2 7年度行政評価の8 ページの上から2 段目の農業の振興をごらんください。

主な事業1 6事業を実施する中で、各指標の達成を図ってまいりました。これら1 6事業の概要につきましては、先ほどの参考資料2 ページの下段にまとめていますのでご一読をお願いいたします。

施策目標の進捗状況につきましては、まず一番上の認定農業者数ですけれども、目標の1 8 0名に対しまして1 6 8名の実績となっております。認定農業者とは、サラリーマン並みの所得4 0 0万円と労働時間を達成するための5 力年の経営改善計画が認定された農業者のことです。高齢化による計画の非更新による減と新規就農者、新規認定者の増が相殺される形で、現在、横ばいで推移しております。

二つ目の農産物認証制度取得農業者数につきましては、2 0 0名の目標に対しまして1 7 2名となっております。本年度、県の認定制度が変更されたことから、見通しが立ちにくい状況です。県の新しい認証制度の生産者・消費者双方への周知次第ではないかと考えています。

三つ目の農地流動化面積につきましては、目標の6 6 0ヘクタールに対しまして6 0 1ヘクタールとなっております。ここ2、3年は6ヘクタールで推移しており、目標の達成は難しいと考えております。理由といたしましては、貸したい側はつくりにくい農地を、借りたい側はつくりやすい農地を求めていることから、ミスマッチが起きているためであると考えております。

内部行政評価といたしましては、企業も含めた多彩な担い手の確保や生産性の向上と

<p>事務局</p>	<p>安全で高品質な農産物供給のためのハード・ソフト両面による支援を行いました。担い手不足や生産性の向上、遊休農地の抑制などの課題解決に向けて、引き続き取り組む必要があると評価しております。</p> <p>続きまして、新総合計画についてご説明いたします。素案の79ページをごらんください。</p> <p>動向と課題につきましては、経営耕地面積の減少理由として、農業者の高齢化・担い手不足・遊休農地の増加に加え、イノシシなどの鳥獣被害の増大を追加しております。</p> <p>それから、経営耕地面積の減少に対する取組として、施設園芸などの競争力のある生産者への農地の集積を行うこと、また、主に水田が対象となりますが、農業者個人単位によるお米の生産や農地・農道・水路・ため池などの保全を集落単位で行う集落営農などの取組を進めていく必要性について記載しております。</p> <p>参考資料の3ページの上段と中段のグラフをごらんください。</p> <p>上のグラフが市場の流通の取扱高と農産物直販所の売上げの指数で、平成18年度を100としたときの率について記載したグラフです。下のグラフは小売の販売先の売上高の推移のグラフになっております。これを見ると、市場流通量の減少やコンビニでの流通の増加など、食品流通の変化が読み取れると思います。</p> <p>また、下段のグラフにあるように、生鮮食品の消費は今後も減少傾向が予測されることから、加工食品などの需要をどのように農業者が取り込んでいくかが課題であると考えております。</p> <p>基本方針につきましては、以上の理由から、素案に記載している内容とさせていただいております。</p> <p>続きまして、主な取組についてご説明いたします。</p> <p>ひとつ目の「多彩な都市型農業を支える人づくり」におきましては、引き続き、多様な担い手の確保・育成や既存の担い手を含めた経営の改善及び安定化に対する支援や生産者と消費者の交流の促進や食育に関する取組を行っていく必要があると考えています。</p> <p>また、「信頼され魅力あふれるものづくり」におきましては、消費者ニーズに即した農畜産物の生産振興や加工品開発への支援、また、それらの供給体制の整備やそのベースにある安全で安心できる農産物の生産に対する支援を引き続き行ってまいりたいと考えております。また、地産地消の促進として、イベント開催など本市の農林水産物に関する情報発信を行いたいと考えております。</p> <p>参考資料の4ページ目をごらんください。</p> <p>この上段の表は、平成25年と26年に大分駅南のいこいの道広場でおおいたマルシェというイベントを行い、そこでとったアンケート結果と大分市の農林水産物の粗生産額の表です。このように、県の農林水産物に対する認識は持っている消費者が多いようですが、本市の農林水産業はあまり知られていないことがうかがえるかと思われま</p> <p>素案の80ページへお戻りください。</p> <p>「特性をいかした活力ある地域づくり」についてご説明いたします。</p> <p>遊休農地の発生抑制のために、集落営農組織を含めた担い手に農地の集積を行ってま</p>
------------	--

います。また、農道や用排水路やため池などの農村における農業関連インフラの維持・整備についても引き続き取り組んでまいりたいと考えております。これらの取組により、参考資料ページ4の下段にありますような、農業・農村の多面的機能の維持・保全もあわせて取り組みたいと考えております。

続きまして、目標設定の指標についてご説明いたします。

認定新規就農者数につきましては、現状2名を27名まで増やしたいと考えております。目標値は、各年5名の積算としております。

主要品目の産出額につきましては、ここで訂正をお願いいたします。現状値が41億6,700万円となっておりますが、この数値を42億2,900万円へ訂正をお願いいたします。これに伴いまして、目標値を42億5,000万円から43億4,300万円へ訂正をお願いいたします。

この金額は、冒頭に表で説明いたしました主要品目のうち、ニラ・オオバ・ミツバ・水耕セリ・イチゴ・ピーマン・パセリ・酪農・肉用牛（繁殖）の生産額を積み上げた数値であります。今後、高齢化により生産者の減少が予想される中、主として担い手の規模拡大を図る中で目標を達成していきたいと考えております。

それから、共同活動取組集落数につきましては、現状値の68から100としております。この数値につきましては、人・農地プラン策定集落並びに中山間地域等直接支払事業及び多面的機能支払交付金事業に取り組んでいる集落数です。

参考資料の4ページの下段、一番下に各事業の対象となる集落数、それから、現在取り組んでいる集落数及び目標集落数について記載していますので、ご確認をお願いいたします。なお、今申し上げた3事業の概要につきましては、5ページ以降に事業の概要の資料をつけておりますので、ご一読をお願いいたします。

以上、第2節、農業の振興に関する素案の説明となります。ありがとうございました。

部会長

今、農業の振興について事務局から説明がありました。皆さん方からご意見を、ご質問でも構いませんので、お受けしたいと思います。どうぞ、ご自由に、闊達な議論をお願いいたします。

委員

今、大分市の現状を言いましたけれども、大分市は、今、農地が4,900ヘクタール弱あります。そのうち、荒廃農地が36ヘクタールほどあり、高齢化、また担い手不足ということで非常に困っているのが現状です。先般、国のほうがTPPを一応合意しまして、アメリカ、オーストラリアから7万8,400トン別枠で入ってくるということも考えられますし、今回のTPPで影響が一番大きいのは畜産だと思います。今後、牛肉や豚肉については、非常に経営が圧迫されるのではなからうかと心配しているところでもあります。

大分市は、県が昭和30年代後半から40年代、水産業に舵をとったこともあり、農業の区画整理がなされていない。先ほど説明があったように、三角の田んぼや狭い田んぼが多いです。今、国は大型経営といっております。考え方としては、北海道とか東北を想定していると思いますが、大分県は中山間が非常に多い地域でありまして、なかなか大型経営ができないのが現状であります。

	<p>先ほど言いましたように、人・農地プランの15プラン、25地域が実際にありますが、若い人がなかなか農業についていけない。今、法人経営をやっている方、大分市にも45生産法人が登録されておりまして、経営がしっかりしているところは、ほとんど担い手がいます。ほかのところ、例えば米をつくっている方々など5年先に今の水田がどうなるかと非常に心配しております。</p> <p>今、各地域で水田は、定年退職者が稲づくりをやっているというような現状であります。TPPが発動して米の単価が下がれば、これからの先行きが非常に不安であります。</p> <p>それと、認定農家というのは、国からの助成金が出ます。麦とか米、農機具の購入などは、認定農家が集落営農をやっていないとなかなかハードルが高いのです。麦づくりも、一昨年までは麦倶楽部という組織があり、助成金が出ていたのですが、昨年度は認定農家が集落営農をやっていなければ助成金が出ないということで、麦づくりをやめたというのが現状であります。つまり、土地はあるけれども、麦づくりをしないという現状でございます。若い人が各地域に一人か二人いれば、振興もできると思うんですけども、現状は非常に厳しいです。</p> <p>それと、今、県と市が企業参入の取組をすすめ、企業がニラや水稲、ネギの栽培をしておりますけれども、ほかの異業種が農業参入をしても、なかなかうまくいかないことがあります。農業はつくって、売って、それからの経営です。自然が相手ですので、非常に難しいというのが現状ではなかろうかと思っております。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。大分市の農業の現状をご説明いただきました。それも踏まえまして、何かご意見・ご質問があればお願いしたいと思います。</p> <p>まず、私からひとついいですか。現行の農業の振興の中で、指標名で農地流動化面積とあります。これは、農業の遊休地のマッチングですよ。マッチングがうまくいったということで、今回の目標設定の中から数値目標は消したんですか。それとも、ある程度目標値に近い数値まで達成したので、今回は落としたという意味ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>農地流動化面積なんですが、今回、落としたというよりは、新しい指標の中で集落での共同活動取組集落数を設定しておりますが、人・農地プラン、中山間、多面的機能とあわせた指標のほうが地域づくりの集積する取組、守る取組としてはわかりやすいのではないかとということで、こちらの指標を今回設定いたしました。</p>
<p>部会長</p>	<p>ということは、農地流動化も多面的集落の中に入るという意味になるわけですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>農地流動化面積は、農地を貸し借りした面積の合計ですが、人・農地プランでも農地をマッチングする取組が行われております。その中でマッチングされた農地を結果として農業委員会を通して手続をしたのが流動化面積になります。だから、人・農地プランとか、そういう多面的な機能の取組があって、結果として流動化面積につながるということなので、わかりやすい指標、どの地区でどのくらい取り組んでいるという指標を示したほうがわかりやすいということで設定したんですが、取組としては同じような形になるかと思っております。</p>

部会長	はい、わかりました。 質問でも何でも結構なんで、ご意見があれば。
委員	参考資料の3ページ、2節、農業の振興のところに直販所と公設市場の割合が出ています。これが全国的な傾向だと思いますけど、直販所のウエートがずっと上がっているんですね、173%。この直販所はどこ辺までが範囲に入るのか。今、スーパーなんかでも結構直販所を持っているし、自分たちで直接直売所を持って生産者がやっているのがあると思いますけども。
事務局	大分市に拠点を持っている直販所の数値、売り上げの調査をしています。つまり、スーパーの中にある分も含まれています。あれも結局、大分市で直販所をやっている人がそこに出しているのです。
委員	それも入っているということですね。
事務局	はい。
委員	それで、80ページに特性をいかした活力ある地域づくりの一番下に、都市と農村の交流活動を支援するということが上げられていますので、直販所を生かして活力を持つていくのが、今、一番近い道かなとは思いますが、できましたら、市で、第三セクターでも結構ですけど、直販所をある程度大きな規模のやつをつくっていくということも検討していただけたらいいかなと思っています。 というのは、やはり大分県下でも消費者が多くて、生産もできるのは大分市だけなんですよね。ほかの都市では、生産が主で、消費が少ない。大分市はその辺に特性があると思いますので、検討いただければと思います。
部会長	それは、流通の問題になるのかな。
委員	今、直販所の話が出ましたけども、大分市は人口が50万弱、福岡はすごいですよね。やはり人口がたくさんありますから、産直所もかなり大きなスペースがあります。それで、今、郊外につくって、毎日都市部の方が直販所に行って買い物をするというのが現状です。今、大分市では農協の花屋さんが一番大きいかな。それでやっと5億。福岡、伊都菜彩あたりは42億とかです。やはり人口が少ないと買い物をする人が少なく、どうしても小口でということになる。大分市も産直所をつくらうという声もありますが、なかなか前に進まないというのが現状です。産直所は場所を選ぶので、47万の人口でつくって採算が合うのかというところがございます。 あとは流通ですね。県外に行くと、かなり大きな産直所があります。先週、福岡に研究に行ったんですが、お客さんがびっくりするぐらい多い。産直は、大分大同、中央青果と植田青果があったけれども、一時期に比べれば大幅に減ったというのが現状です。

	<p>やはり市場も非常に苦しい経営であります。農家のほうもやはり消費者側に立って単価を決めて、安く売らなければなかなか物が売れないのが現状ですし、大規模産直は非常に難しいのではないかと私は思っております。</p>
<p>部会長</p>	<p>ほか、何かありますか。 委員さんのところは、もう市場に出してるといことですか。</p>
<p>委員</p>	<p>はい。私は、今、ミツバとセリをつくっているんです。ミツバというのは、大量に食べないから、初めからもう共選・共販でやって、関西の農協に集めてというように口の多いところに持っていかないと商品がはけないというのが現状です。</p> <p>今、大分ではニラ、ミツバ、オオバが大型経営をやっておりまして、関西のほうにもそういう品目を出しております。今、市場は四つ、京都に1社、大阪に3社の4社あるんです。そのうち、大分産品は、セット販売で行くんです。もう単品ではロットの問題で、競争にならないです。先般、私も関西のほうに行きましたけども、昔と流通が大きく変わってしまって、まず、八百屋さんがいない。今は量販店単位。それが現状であって、市場のほうもどういうふうにして販路を拡大しようかということまで一生懸命です。</p> <p>ですので、市場の方の話では、今はもう高齢化でやめていく人が増えているので、産地が少なくなっていく。若い担い手がいなければ、現状維持かじり貧かというのが日本全国の産地の状況であります。ですから、大分市のニラ、ミツバ、オオバというのは、経営がある程度大規模でありますし、法人化もしております。そういうところは担い手がいますけれども、米だけでは非常に厳しい。野菜であれば、都市近郊でやはりパートさんの雇用、オオバあたりは外国人の受け入れで対応をしているのが現状です。朝から晩まで働く農業をしないと、非常に厳しい。</p>
<p>部会長</p>	<p>しかし、自給自足の問題もあります。加工して付加価値をつけるということをよく言われますが、これも難しいですね。</p>
<p>委員</p>	<p>この問題を解決するために、何から取り組んでいくのがいいのか、どこを糸口にするべきなのかということが何となく見えなくて、担い手の不足、それはそうでしょう。価格の下落、そうだと思います。大規模化によって、中小・零細の価格競争力、それもそうだと思います。全部、事実として全くそのとおりだと思ふんです。どれも大事なのかもしれません、どこに一番フォーカスをしていけばブレイクスルーできるのかというところがどうしてもわからなくて、ひょっとしたらここにいらっしゃる皆様も、それはどこかで思っているかもしれませんが、そこがわからないですね。</p> <p>前回の部会でも何となく似たようなことを申し上げたんですけど、人口が減ってきて、担い手も減ってくるため、効率化というか、付加価値化みたいなところに活路を見出していくしかないのかなという文言が80ページあたりにありますけども、低コスト、省力化というのも付加価値だと思ふんですし、減化学肥料、減農薬栽培、これも付加価値だと思ふんです。多分、農薬使わない野菜のほうが高く売れると思ふんです。といて、別に農薬を否定するつもりは全くございません。農薬がないと多分農業は立ち行かない</p>



<p>部会長</p>	<p>と思うので。6次産業化というのも付加価値だと思います。</p> <p>担い手が不足していくといたら、どうやって効率的に植えたり、買い取ったりしていくかというところを考えるべきなんでしょうし、何となく付加価値をつける、効率的にやるということなのだと思います。</p> <p>私が思うのは、今の問題もそうなんですけど、やっぱり短期・中期・長期で考えるようにしていかないと。短期でいうと、とりあえず単価が上がればいい。中期というのは、効率化。長期で担い手と。じゃあ、何が最優先で、これをやれば全部解決するなんていう問題はない。しかも、今回のTPPみたいに外からの影響がすごくかかってきますから、そういう意味では、やっぱり一番は担い手なのではないかなと。事業をする人がいなかったら、その事業はとまってしまいますからね。それはまさに商業も一緒なんです。担い手というのは。だから、担い手をつくるためには、営農であったり、いろんな手法に取り組んで、収益が上がれば担い手は出てくる。どうしても、きつくて、つらくて、朝早く起きて、一日中仕事して、それであまり収入もなければ、ほかの産業に出ていきます。だから、そのためにはどうするかということなんだろうと思います。</p> <p>特に農業について、大分市の農業が発展する手法について何かありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>いや、もう皆さんおっしゃるとおりなんです。僕、農業専門じゃないんですけども、やっぱりやりがいですよ。農業を目的に東京から戻ってくるという人もおりますけども、ああいった方は土にまみれて、癒やしとやりがいを求めてくるんです。</p> <p>やっぱり日本だったら技術革新の部分を専門的に研究して、効率化を図って、それを普及させていいものをつくるという取組も必要だと思います。それと、今は土にまみれることに癒やしを感じるというブームですけども、両方兼ねたいいい形でできればいいのではないかと思います。</p> <p>北海道でトマト1個から1万個の実がなるというのを見てきたんです。水耕栽培で、普通のトマトを植えたら、1年間で1万個、直径が十何メートルぐらいあるんです。そんな技術もあるんで、日本だったら、もっと効率的に育てられるような取組が一番いいのかなと思っています。</p>
<p>部会長</p>	<p>そのトマトはおいしいんですか。</p>
<p>委員</p>	<p>おいしくする技術もできてくると思いますから。</p>
<p>部会長</p>	<p>そうですね。そこも研究しなければいけない。</p>
<p>部会長</p>	<p>ほか、ないでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>少し話がずれるかもしれないんですけど、今、結構全国的にはやっている農業や水産業の商品を活用したふるさと納税があるじゃないですか。何かそういったところの取組方針や今後についてお考えがあるでしょうか。</p>

事務局	<p>ふるさと納税ですけども、本年度は商品を拡大してやっています。その中には、もちろん農林水産物を入れてやっております。お米とか関アジ・関サバとか。そういう形で広げていくように今考えております。</p>
委員	<p>結構知っている人は知っているし、私も、他県に納税しているんですけども、魅力的な商品のひとつだと思いますので、そういうところをうまく活用していければ、大分もよりよくなっていくじゃないかなと。微々たるものではあるとは思んですけどね。本質からはちょっと外れるとは思んですけど、そういったところの活用もあればというふうに思います。</p>
部会長	<p>それでは、特にほかにはないようでしたら、本件について、事務局、整理をしてください。</p>
事務局	<p>それでは、本件の整理をさせていただきます。</p> <p>まず、直販所の問題ですが、県内に大規模といいますか、産直の施設を設けたほうがいいのではないかという意見もありましたが、それに対して、本市の規模では少し難しいのではないかというご意見もございましたので、これについては事務局のほうで検討をさせていただいて、素案の中に記載として入れるのかどうかを整理させていただきたいと考えております。</p> <p>また、今後の農業の担い手を確保していくために必要なもの、付加価値化であったり、収益につながり、経営ができるような状態にしていくことが担い手の確保につながっていくというようなご意見もございましたが、その中で、やりがいであったり、今後の技術革新によって省力化、効率化といったような観点で、少ない人数でも農業が成り立っていくような形を目指していくべきではないかというような意見もございました。最後にふるさと納税の取組、本市の農産品等を全国的に知っていただくために、現在も活用はしておりますが、さらなる活用を考えていくべきではないかということで、こういった意見について事務局のほうで整理をさせていただいて、またご報告をさせていただきたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
部会長	<p>以上のような取りまとめでよろしいでしょうか。</p>
<p>(異議なしの声)</p>	
部会長	<p>よろしければ、次の商業・サービス業の振興についてに移りたいと思います。事務局、説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>商業・サービス業の振興では、これまでの総合計画で、「小売商業の振興」、「卸売商業の振興」、「サービス業の振興」と三つの節に分けていたものを一つの節に集約してお</p>

ります。この理由につきましては、後ほどご説明いたしますので、まず現総合計画の総括評価の9ページをごらんください。このページに小売商業の振興というのが一番上にありまして、その次に卸売商業の振興、そして、一つ飛ばしてサービス業の振興という、この三つについてご説明します。

まず、小売商業の振興では、主な事業として、大分七夕まつりや大分生活文化展などの市が中心となつて行う大規模なイベントや商店街連合会などの経済関連団体並びに商店街等への出店や民間団体が実施するイベントに対する補助金の交付というのを行ってまいりました。

施策目標に対する進捗状況につきましては、平成28年度の目標値5,486億円に対し、平成26年度の実績値は4,292億円となっております。

内部行政評価におきましては、中心市街地では、個店への経営指導や商店街の基盤整備、イベント実施などについて補助を行った結果、年間商品販売額は目標値を下回っているものの、空き店舗率の改善や来街者数の増加に一定の効果があつたとしております。

一方、郊外部におきましては、長引く景気低迷や後継者不足により空き店舗が増加していることから、今後は市域の均衡ある発展に向けて、地域性に配慮した商店街の活性化や魅力づくりを進めていくことが必要であるという総括をしております。

次に、卸売商業の振興の主な事業については、先ほどの小売商業の振興と同様となっております。

施策目標に対する進捗状況は、平成28年度の目標値9,921億円に対し、平成26年度の実績値は7,174億円となっております。

内部行政評価におきましては、小売業・サービス業とあわせて包括的に支援を行ってきたものの、産業自体のニーズの縮小やメーカーと消費者の直接取引量の増加により、目標販売額に対し十分な成果が挙げられなかった。業態の多様化が進んでいることから、今後はこれまでの取組に加えて新たな付加価値を創出する等の取組を相互に関連の深い小売業・サービス業の振興と一体となって取り組む必要があるとしております。

続きまして、一番下のサービス業の振興についてですが、こちらの主な事業も小売商業の振興と同様となっております。

施策目標に対する進捗状況は、平成28年度の目標値8,339事業所に対し、実績値は7,696事業所となっております。

内部行政評価では、サービス業の活性化を図るため、経営相談や人材育成などにより経営基盤の強化を図るとともに、中心市街地では新規出店に対する補助を行ってまいりましたが、今後は消費の伸び悩みや人口減少による市場の縮小が懸念されることから、新たな消費取り込み策を支援していくことが必要であるとしています。

以上のように、現総合計画では、活気ある流通・サービス業の展開に向けて、業態ごとの特性に応じた施策を実施するという理由で三つの節に分類してきました。しかしながら近年では、インターネットによる商取引の普及に伴い、卸売業が小売業を兼ねるケース、それから一つの事業主体が小売業とサービス業を並行して行うようなケースなどが増加してきておりまして、業態ごとの垣根が曖昧になってきております。我々の実際の業務におきまして、事業者の方からは、創業支援や経営相談、人材育成、融資など

それぞれの経営課題に応じた施策が求められている状況があります。

こうしたことから、新総合計画におきましては、これら3節を商業・サービス業の振興という1節にまとめ、包括的にその振興を推進してまいりたいと考えております。

現総合計画の総括評価につきましては以上となります。

続きまして、新総合計画の説明をいたしますので、素案の86ページをお開きください。

まず、動向と課題では、近年、商業・サービス業における市場競争が一段と激化していること、それに伴って地域の商店街に空き店舗が増加してきていること、商店街としての機能低下が危惧されていることなどについて記載しています。

お手元に、右上に参考資料と書いた資料がございますが、こちらに中心部の商店街の空き店舗率を掲載しています。また、その下には、インターネット取引の増加もあります。国レベルの数値にはなりませんけれども、商取引の市場規模の推移というのを資料としてつけておりますので、こちらをあわせてご覧いただければと思います。

素案に戻りますが、基本方針といたしましては、人材育成などによる経営基盤の強化を進めるとともに、創業支援などによる産業集積を推進し、商店街の機能強化を図ること、また、商業・サービス業にかかわる動向や課題を迅速かつ的確に把握するため、事業者との意見交換の場を積極的に設けること、あわせて商工会議所等の中小企業支援団体との連携を強化することなどを挙げています。

主な取組といたしましては、特色ある個店づくり、魅力ある商店街づくり、経営基盤の強化、創業支援、意見交換の場の充実という五つを掲げておりまして、内容については記載のとおりであります。これらで現総合計画に記載している三つの節の主な取組については、おおむね包含しているものと考えております。

このうち、意見交換の場の充実につきましては、新たな取組として掲げております。これは、中小企業振興基本条例の策定時から行っております中小企業100社訪問や各種経済関連団体との会合などに積極的に参加し、特に変化の激しい商業・サービス業の動向や課題を的確に把握して、効果的な施策展開に役立てていこうという考えで新たに設けた取組であります。

最後に、目標設定についてであります。小売商業の年間商品販売額、卸売商業の年間商品販売額につきましては、現総合計画の中でも掲げている目標です。目標値につきましては、人口減少による市場規模の縮小等を勘案いたしまして、平成24年度の実績値としております。

また、現総合計画ではサービス業の事業所数を目標数値として掲げておりましたが、サービス業については明確な定義が存在しないため、統計の産業分類の基準も改定されやすく、一定の基準で推移をたどっていくことが困難ですので、今回は目標数値から削除しております。

一方で、本市におきましては、中心市街地活性化基本計画を策定し、中心市街地の活性化に向けて取り組んでいるところでありますが、現総合計画の中ではその指標を設けておりませんでした。今回、県都の顔である中心市街地のにぎわいを図る指標として、新たに中心市街地の歩行者通行量を目標として掲げたいと思っております。

目標数値、小売業の年間販売額、卸売業の年間販売額の推移につきましては、参考資

部会長	<p>料としておつけしました2ページ、3ページ、それから4ページに歩行者通行量も記載しております。</p> <p>説明は以上になります。</p> <p>それでは、商業・サービス業の振興について、皆さん方からご質問、ご意見があればお伺いしたいと思います。</p>
委員	<p>佐賀関とか野津原とかその辺のところはこれに盛り込まなくていいのかということ。</p> <p>それから、最後の意見交換の場の充実ということにつきましても、月に1回行っている市商店街連合会の会議に商工労政課の方がお見えになって、意見を聞いていただき、また、市の動静などを説明していただいておりますので、それについては大変いいと思っております。</p> <p>以上です。</p>
事務局	<p>周辺部の商店街の件です。市の基本的な考え方としましては、中心市街地活性化基本計画にももちろん取り組んでおりますけれども、目指しているのは市域の均衡ある発展ということが最終的な目標であります。今回の素案の主な取組の中に、魅力ある商店街づくりという項目がありまして、その上から2段目、地域性に配慮した商店街の活性化とあります。ここに考え方としては盛り込んでおります。</p>
部会長	<p>動向と課題の中に入っていますね。地域の商店街では空き店舗の増加が目立つようになると。これ、中心市街地の空き店舗率が出てないけれども、例えば佐賀関や鶴崎、野津原の商店街も含んだ空き店舗率を出すともっと高くなるんですね。ただ、その辺の数値は把握しているんですか。</p>
事務局	<p>商工労政課では、中心部商店街の空き店舗率と鶴崎商店街の空き店舗率の推移を調査しています。</p>
部会長	<p>それでは、野津原とか佐賀関は反映されていないんですね。それは、しっかり見ていけないといけないと私は思います。中心部以外の商店街が商業集積の場として機能しないようなものになっている場合もあるので、大分市全体の中で考える必要があるのかなという気はしています。</p>
委員	<p>目標設定で、小売商業の年間商品販売額とその下の卸のところの販売額、現状から目標がステイになっているんですが、要は現状でよいという意味なんですか。</p>
事務局	<p>現状でよいというふうには考えているわけではないんですけれども、参考資料の例えば2ページをごらんいただきたいんですが、ここに小売業の年間販売額の推移というのが出ています。上のグラフですけれども、推移を見ていただくとわかるんですけれども、平成19年から平成24年にかけては減少傾向というのが出ています。この流れと今後</p>

<p>委員</p>	<p>の人口減少を勘案すると、現状を維持するという消極的な考えではないんですけど、やはりこの傾向からいえば下がってしまうものを下げ止めようというような考えでこの目標を設定しております。</p> <p>例えば、中心部の歩行者数は上げましょうとかいうこともあったりだとか、要は市外の人を大分市に呼び込んでいこうということだと思うんです。あと、1ページにありますeコマースあたりなんか、要は地域のことだけではなくて、オンラインビジネスにも参入して業績を伸ばしている。つまり、地域の特性を生かして、流通も発達しますけど、今のままでよしということなのかどうなのか。</p> <p>それと、先ほどの評価のときにありましたけれども、要は景気が悪いとこういうような、おそらく全体でいうと景気はずっと緩やかながら回復していると言われている中で、要は給与所得が伸びていかないことと景気が悪いということと同じような意味で使われているんじゃないかという気もします。この辺の目標の置き方だとか、メッセージ性だとかをどのようにこの目標に反映していくのかという点で、足元を見ると、目標も高ければいいというものではないと思うんですけども、目標が今と同じだということについて、少し違和感があります。</p>
<p>部会長</p>	<p>今のご意見について、何か皆さん方からありますか。</p> <p>ひとつ、例えばウェブビジネス、ネットの分については消費額としては調べようがないですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>個人の消費額については、大分市の店舗で購入したものしか分かりません。</p>
<p>部会長</p>	<p>そうですね。</p> <p>ウェブビジネスがどんどん増えていくということは、現場の、要するに小売業の売上というのは当然減るわけです。</p>
<p>委員</p>	<p>その売上高はどこで立つんですか。例えば、大分市の商店がeコマースをやっているという場合は、売上が立つわけなんですか。</p>
<p>部会長</p>	<p>そうですね。大分で営業しているところは売上としてカウントされるけど、直接県外の業者等から購入したものについてはもうチェックはできない。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば私が出店すると、売り上げが立つんで、おそらくウェブでのビジネスというところは、大分の商店が売ったものということで把握できる。</p>
<p>部会長</p>	<p>それはできると思います。ただ、大分市の商店以外のものは、捕捉するのは難しいので大分市民の消費額を把握するのは難しい。その辺はどうなのかな。</p> <p>そのものは今お話されたような形で、事業所単位の捕捉ということなると思いますの</p>

事務局	<p>で、東京のこのお店から買った消費額については捕捉できないと当然思います。</p> <p>ただいま委員さんおっしゃられたように、事業所としての売上が現状維持という目標設定が持っているメッセージ性についてはやっぱり少し事務局としても配慮しなければいけないのかなとは思いますが。ただ、目標値については検討させてください。</p>
部会長	<p>我々現場で商業をしている者については、今の状況で人口減少社会になって、いろんな販売方法が出てきて、その中で実際の小売を現状維持するというのはかなり大変だと思います。だから、目標設定で現状維持というのは普通あり得ないけれども、小売の分についてはかなり難しいと思います。人口はまさにそうだと思います。人口減少社会と言われて、何とか歯止めをかけて、今よりも減るのを減らそうと。今よりも少なくなってもいいとか、人口減少はいたし方ないけれども、減らす幅は少なくしようというのが、今の国もそうだし、県もそうだし、多分、人口ビジョンを見ても大分市もそうなんだと思うんです。だから、おっしゃるように、目標としてどうなのというのは、私もよく理解はできるんです。だから、その辺はもう一回ちょっと検討してみてください。</p>
委員	<p>観光の取組のなかで、観光客が来たときの消費をどのように捉えておくのかとか、部会長がおっしゃるように、実業でやられている方の意見というのは、伸びてほしいというのが本音ではないかと思いますが。</p>
部会長	<p>我々もぜひ伸ばしたいなと思います。いわゆる観光客を呼び込む、流入人口等々で、そこでいかに伸ばしていくか。まさに今、いろんなところで中国からの観光客が来て、売り上げが伸びているとか、そういうことも含めて考える必要があると思います。先程の農業では、直売所の話が出ましたが、要するに、今、中国人観光客を呼び込む商業施設は必要かもしれません。</p> <p>先日、鹿児島島に行ってきたんですが、鹿児島島は街の真ん中にラオックスができていますよ。鹿児島島はチャーター船で中国人観光客がかなり来るわけです。施設も必要ですが、まず、どうやって観光客、インバウンドを引っ張ってくるかを考える必要がある。</p> <p>他に何かありますか。</p>
委員	<p>簡単な質問なんですけど、中心部商店街の空き店舗率、平成23年で山になっているのは何かあったんですか。</p>
部会長	<p>ああ。23年9月に1割ぐらい空き店舗になったけど。これはリーマン・ショックがあったときですかね。</p>
事務局	<p>そうですね。リーマン・ショック、あとはパルコの閉店が23年1月だったと思います。そういった影響が商店街に波及してきたのがちょうどこのころだと思います。</p> <p>商店数の減少もほんとうに小規模、零細企業が減っているという状況ですよ。</p>

<p>部会長</p>	<p>ここの中には入っていませんけど、商店なんかも担い手が問題で、後継者問題というのはやっぱり大きな問題なので、若干そこも触れていたほうがいいのか。目標数値なんていうのは当然無理だと思いますから、動向と課題の中に少しそういうのは入れておいたほうがいいのかと思います。後継者問題というのはまさに、後継者がいなくて店を畳むところが結構あるので。</p> <p>特によろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(なしの声)</p>
<p>部会長</p>	<p>それでは、事務局、まとめのほうよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、本件についてのまとめを行います。</p> <p>まず、中心部だけではなくて周辺部、佐賀関、野津原についての空き店舗率等、表現としては一応入れておりますが、その辺の具体的な取組としてもう少し進めていくべきではないかということでご意見をいただきました。</p> <p>その他といたしましては、観光客ですね。特に買い物をする海外の観光客、インバウンド観光等の誘致もあわせて、本市の消費額、商業の振興という点ではそういった面の取組もあわせて進めていくべきではないかというご意見がございました。</p> <p>それと、担い手、後継者問題については、間接的な表現としては経営基盤のところには人材の育成・確保ということを書いておるんですが、もう少し直接的な表現として、後継者問題でお店を畳む方等に関する課題、そういったものを具体的な表現として入れ込んでいきたいということで、事務局で検討をさせていただきたいと思います。</p> <p>あと、目標額の設定について、現状維持という現在の小売・卸の目標値についても現状維持が厳しいのではないかという意見もございまして、もう少しメッセージ性も考えて金額を設定すべきではないかというご意見もございましたので、それは事務局で検討させていただきたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>部会長</p>	<p>今のまとめでよろしいでしょうか。</p> <p>ただ、さっき出ていたウェブビジネス、その辺のところも少し入れておいたほうがいいのかと思います。これからの商業として、取り組んでいく必要もあるでしょう。ICTを活用してというのは当たり前ですが、商業の中で一番遅れているのがその辺かなと思いますので、その辺を若干追記してもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、ICTを活用したウェブビジネス、eコマースの部分についても記載を検討させていただきたいと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なしの声)</p>



<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、流通拠点の充実について、お願いしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>では、引き続きご説明させていただきます。</p> <p>まず、現総合計画の総括評価の説明をいたしますので、総括資料の9ページをごらんください。</p> <p>上から3段目の流通拠点の充実でございます。流通拠点の充実では、主な事業として、公設地方卸売市場の設備更新事業や施設改修事業、公設地方卸売市場運営協議会への補助金の交付、大分港大在コンテナターミナル活用促進事業などに取り組んでまいりました。</p> <p>その結果、大分港大在コンテナターミナルの取扱実入りコンテナ数は平成28年度の目標値2万7,792TEUに対し、平成26年度の実績値は2万5,283TEUとなっております。</p> <p>また、公設地方卸売市場における取扱金額は、青果部では平成28年度の目標値160億円に対し実績値は149億円、水産部では目標値90億円に対し、実績値が85億円となっております。</p> <p>隣の欄の内部行政評価、総括意見のところですけど、平成23年度から実施している輸入コンテナ助成制度により、実入りコンテナ数が順調に増加していること、公設地方卸売市場の取扱量が減少する中、取扱金額は目標値の9割を達成していること、それから、大分流通業務団地では融資・助成制度の活用促進や関係機関との連携により積極的な企業誘致活動が進められていることなどから、一定の成果を挙げていると総括しております。</p> <p>現総合計画に関する説明は以上となります。</p> <p>続きまして、新総合計画の説明をいたしますので、素案の88ページをご覧ください。</p> <p>まず2点、訂正をさせていただきます。一つは文言の削除であります。右側の89ページの目標設定の中に「大分港大在コンテナターミナルの取扱実入りコンテナ数（外貨及び内貿）」の後に「卸売商業の年間商品販売額」というのが入っていると思いますので、こちらを削除してください。</p> <p>それからもう1点の訂正は、左側のページの下にグラフを二つ掲載しております。右側のグラフにつきまして、左側のグラフと似通った情報になりますので、こちらの取り扱いコンテナ数の推移のグラフを削除して、そのかわりに参考資料として別に今日配付しております資料の5ページ、公設地方卸売市場の年度別取扱高推移、青果部と水産部の合計でありますけど、こちらのグラフを素案には載せていきたいと思いますので、訂正をお願いいたします。</p> <p>それでは、説明をいたします。この「流通拠点の充実」では、活気ある流通・サービス業の展開に向けて、現総合計画に倣い、公設地方卸売市場、大分港大在コンテナターミナル、大分流通業務団地を、本市における流通の拠点と位置づけ、その充実を図ることとしております。したがって、以下では基本的に各々の拠点ごとに説明を行ってまいりたいと思います。</p>

	<p>まず、動向と課題についてですが、各々の拠点ごとに整理をしております。</p> <p>卸売市場では、近年、少子高齢化に伴う人口減少の進展や社会構造の変化に伴う消費者のニーズの多様化などにより、市場の取扱量が減少し、平成18年の地方卸売市場への転換後も、取扱高の減少傾向に歯止めがかからない状況です。</p> <p>また、大在コンテナターミナルにおいては、他の流通港湾との取扱貨物量の競争が激化している中、東九州の玄関口であるという立地特性を生かし、ポートセールスによる大分港の利用貨物の増加や新規航路の開拓などに取り組むことが求められています。</p> <p>さらに、高速交通体系の整備により交通の利便性が高まったことに伴い、大分流通業務団地の利用促進を図り、大分港の競争力強化につなげていくことが必要となります。</p> <p>次に、基本方針についてですが、先ほどもご説明いたしましたとおり、本市が、環太平洋地域・アジアにおける国際交流拠点及び東九州における広域流通拠点となるため、公設地方卸売市場、大分港大在コンテナターミナル、大分流通業務団地を、本市における流通の拠点と位置づけ、その活用促進、機能充実を図ることとしています。</p> <p>次に、主な取組についてですが、公設地方卸売市場の機能向上については、二つの取組を掲げています。一つは、関係機関と連携し、品質管理を徹底することにより、市場の信頼性の向上に努めること、もう一つが、市場開放等を通じた情報発信により、地元産食材をはじめとした生鮮食料品等の消費拡大を推進することです。</p> <p>大分港大在コンテナターミナルの活用促進については、新規航路の開設や貿易港としての体制整備の促進、国内外への広報活動、ポートセールスを関係機関と連携して行うこととしております。</p> <p>また、大分流通業務団地の活用促進では、融資や助成制度の活用促進や関係機関との連携による企業誘致活動により、流通業務団地への企業の移転、誘致を推進します。</p> <p>最後に、目標設定についてですが、指標につきましては、基本方針や主な取組について大きな変更がないことから、これまでの指標である市場の取扱高、並びに取扱実入りコンテナ数としたいと考えております。ただし、市場の取扱高につきましては、現総合計画では、青果部と水産部というのを分けて目標設定しておりましたけれども、これを1つの数値、合算した数値としたいということと、コンテナターミナルのコンテナ数については、外国との取引と国内の取引を合わせた数値を今掲載しているところです。</p> <p>説明につきましては以上です。</p>
部会長	<p>流通拠点の充実ににつきまして、皆さん方からご質問・ご意見があればお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>ひとつ質問ですけれども、いろいろな方のお話を聞いていると、東九州自動車道が開通して波及効果が出ていますということをよく聞きます。高速道路網の整備で思いつくのは、流通がよりスムーズになって、物の流れがよくなる、血流がよくなるということかなと思います。せっかくそういう道路網ができたので、例えば、流通拠点の誘致を大分の高速道路の近くに置くとか。九州の中での中央に近いところに位置していますから、どこに行くにもアクセスがよくなってきていると思いますし、海も近いので、環境がそろっていると思います。ですから、何か物流拠点を呼ぶような発想がないかなと。</p>

事務局	<p>今、現状としては流通業務団地というのがあって、そこが高速にもアクセスが非常にいいですし、大在港とも10分程度で往来できるので、その活用を進めております。流通業務団地については、まだ入居率も半数程度ですので、今の考えとしては、そこをまず埋めていくことが先決と考えております。実際に新たな拠点というのを別につくるというところまでは、まだ考えが及んでいない状況であります。</p>
委員	<p>まずそこからいいと思います。物流は、私も何か常識を覆されているような感じがするんですけども。</p> <p>一つだけ例を言うと、前にアメリカのシカゴに住んでいたんですが、日本のCDを買ったんです。それで、今、どこにあるのかなと思ったら、名古屋のどこかにある物流拠点がでて、それが中部国際空港に行って、まず香港に行ったんですね、アメリカに来るのに。香港から、シンシナティというシカゴから飛行機で1時間半ぐらいのところに行って、シカゴに来て、私のところには3日で来たんです。</p> <p>シカゴは中西部の物流の街で、ハブではあるんですけども、物流拠点のトレンドはわりと別です。その地域の中心都市は結構飽和している、福岡などは、飽和しているので、外国ですとそういうところに置かないのが結構トレンドみたいですね。なので、結構メジャーな会社の拠点はあまり知らない街にハブがあります。それは、物流の世界は大消費地があるからハブをその場所に置くということでもないということですよ。</p> <p>海に近いですし、道路もあるというのは結構それだけでメリットだと思うので、まずは流通団地を埋めていく。まず、それが先決だと思います。しかし、大分には地の利があるんじゃないかなと思うので、ここは希望を持って、取り組んでいくことが必要ではないかと思います。目標数値も、コンテナ数を見ても1割5分ぐらいアップですよ。物流というのは、大分の地の利を生かせるのかなと思いました。</p>
部会長	<p>ハブ化というのは、随分前から言っていましたね。地の利から言うと、ほんとうにいいところがあると。ただ、残念ながら、エアとの接続が悪いんですね。海とエアとが近くて連携できると、もっとよかったですけどね。</p>
委員	<p>直線距離だと近いんですけどね。</p>
部会長	<p>直線で行ければ一番いいんですけどね。</p>
委員	<p>大在では、最近、木材を積んだトラックをよく見かけます。そんなに高付加価値の日田のブランド杉とかじゃなくて普通の原木だと思うんですけど、多分韓国とか中国とかに出る物だと思うんですよ。統計を見ても結構出ていますね、原木の輸出はここ2、3年中韓の一部が特に伸びています。これ、港別に見ると、ほとんど九州の港から出ています。九州に対する木材、原木に対する需要というのは高まっていますね。先月、日田に行ってきたんですけど、そんな声を聞きました。原木を積んだトラックが結構入ってきているのを見て思いましたし、いい兆しかなと思います。</p>

部会長	<p>輸出货量は増えているけど、単価はどうなんでしょうか。</p>
委員	<p>目標設定で、コンテナの数と設定していますが、コンテナも付加価値があるもので詰めたほうが当然いいでしょうし、単価が安いと薄利多売になるでしょうから、この立て方は議論すべきかもしれません。あと、物量である程度見るという物差しのつくり方というのもありだと思います。ただ、金額ベースもあっていいのかなという気はします。単に物の容積ですよ。</p>
委員	<p>コンテナの中を埋めるビジネスですよ。一つの発注でコンテナは埋まらないので、それを埋めるビジネスをどのようにして、しっかりとコンテナを埋めて出していくか。今、埋まらないので出せませんとか、そのために負担額が多くなるとかということがあって、コンテナを埋めるビジネスが発達しているみたいですから、このようなビジネスをセットで考えていくことも大切だと思います。</p>
部会長	<p>それは大事なことです。</p>
委員	<p>付加価値が高い物って、意外と物はちっちゃかったりしますしね。</p>
部会長	<p>あと、公設地方卸市場における取扱金額について、水産物関係でないでしょうか。</p>
委員	<p>1次産業、農業もそうですけど、生産者側にすると、消費者の数、要は食べる人がいるかないかということです。だから、生産するけど、県内の地産地消ができないので、県外に送るという話で、そこに流通ができています。だけど、県内で地産地消ができれば流通は問題ないんです。</p>
部会長	<p>全部消費できれば一番いいよね。</p>
委員	<p>要は、ここの公設の市場の部分にしても、やはり取扱をどうするかという話になると、現状維持だと思います。人口減少で、大分市民を含めて県内の人口が少ないということなので、そこにどうやって人を呼び込み、流通を消費の中に入れていくか。大分市だけの考え方でいいのか、大分県という形でというように、消費という部分が国内外から来られる人、韓国、中国の人たちが消費しているという形で、消費を増やしていく手段というのをこれからどうやるか。</p> <p>先ほど言われたように、大分市の中の一大消費というか、まず、直売所を。そういう部分で、少ない大分市民、県内の分について、県外から人を呼ぶことで消費の部分が広くなればいいと思います。だから、色々ほかのところを聞きますけど、わざわざそこに、県外に行って買うということも、直売所の特色によって、毎日、毎週人が多いという話も聞いていますので、そういう考え方、取組も必要じゃないかなと思います。</p>

<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>県のいろいろな農産物が香港に行っていたりするじゃないですか。大分市の農産物で何かそういう海外に持って行って、これを売り込もうとかいうのは何かあるんですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>大分市の農産物は、先ほど出ているように、ニラ、ミツバ、オオバという軟弱な野菜が多くございますので、輸出に向かない品目が多い。果樹などは輸出に向いていると思いますが、量が少ないということで、その辺をどう考えていくかということです。</p>
<p>部会長</p>	<p>鮮度の問題が出てくるんですね。</p> <p>味と鮮度でしょうね。</p>
<p>事務局</p>	<p>魚なんか、なおさらですね。</p>
<p>部会長</p>	<p>無理ですね。</p>
<p>委員</p>	<p>そうですね。国内なら可能でしょうけど。</p>
<p>部会長</p>	<p>そうですね。だから、佐賀関は水産物が人口減少で減ってきていますけども、今までは大阪とか東京の大都市に出荷していました。今後、何をするかというと、生産が落ちていっているので地産地消をしないといけないという話です。10年ぐらい前までは、県内にも出荷してなかったんです。リーマン・ショックなどの影響で消費が落ちたんです。それで何か進めていかないといけないということで地産地消を進めました。だから、今、県内のホテル・旅館、飲食店に配達をしています。これがひとつの方向性で、地産地消と思っていますので、それを今進めています。</p>
<p>委員</p>	<p>要は、大分のブランド商品があるということで、県外で消費できない、大分に来ないと食べられないという部分が商品の付加価値となれば、その生産により商業観光、全てがつながってくる。だから、一人一人が考えるのではなく、全体の中、経済の中で方向性を考えていかないといけないと思っています。</p>
<p>部会長</p>	<p>関アジ・関サバはほんとに取れなくなっているんですか。</p>
<p>委員</p>	<p>ええ、量的に生産が下がっています。しかし、東京に出しても消費が追いつかない。だから、今、供給過大なんです。まだ、高級食材として食べる人はいるんですけど、量が減っている、人数が減っている。だから、東京に送っても、以前のような価値、価格がとれないので、県内の地産地消に向けていく、分散するということを思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>食べる人が少ないというのは、高いから食べないということですか。</p> <p>いえ、今、食が変わったんです。1本丸ごとを買わないんです。1本丸ごと買って帰</p>

<p>委員</p>	<p>られるのは60代後半の方です。50代とか40代の方は1本姿のままは買って帰らない。「さばいてください」「帰って食べられるようにしてください」ということです。今、農業もそうですけど、お客さん、消費者のニーズ、何を求めているか、どういう商品を求めているかというのを考えて製品づくりをしないといけない。</p> <p>今までは、市場に出して、卸に行き、小売店に行って、消費者に行くと。そこまで通る間に消費者用の商品に変わっていたんです。生産者の商品がそのまま行ってないんです。途中で加工されて、消費者の口に入っていた。そこが、流通というか、商業の形態が変わって、大規模店舗というところが入ってきて、小売りが減った。だから、まちなかの鮮魚屋さんはいないんです。スーパーなんですよ。以前は市内に小売店、鮮魚屋さんというのがいて、市場から仕入れて、それを調理して、お客さんに出していたというのが流通だったんです。しかし、それが減ったから、公設市場の取り扱いが減るんですよ、そこから仕入れるお店がないから。そうすると、先ほど言った空き店舗が増える。やめるから、後継者がいないから。これも全部つながっているんだと思っています。</p> <p>だから、生産者としては、消費者が何を求めているかを考えて、対策、方向を決めないと、じり貧だと思います。農業もそうですけど、魅力がないと若い人は入らない。今、年配の方も、もう自分の代でいいよという人も多い。だから、収入があり、生活できることをしっかり保障してあげられると、若い人も継ぐんですよ。そうなると思います。だから、一つ一つじゃなくて、全体の中で方向性を決めてあげること、つくってあげることが、これからの検討課題だと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。 その他、何かありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>これは大分市の中での農業のことで、いろいろな話、数字が出ていますけど、これは県全体としての数字の比較ができるようなものはありますか。</p>
<p>部会長</p>	<p>県は県で出せますが、それを対比はされてないんですよ。</p>
<p>委員</p>	<p>それともう一つ、どんどん人口が減っていますよね。それで、高齢化になっていますよね。そしたら当然、食が減ってきますよね。じゃあ、そこに対する自給率といいますか。要は、いろいろな目標を作っていますけれども、その目標というのが、これで見ると大分市内だけの消費で終わるのか、目標値を立てて、余ったものは海外とか県外に出していくのかという、その目標なんですよ。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、最初の対比については、基本的にある程度、どんな指標でも市ベースであったり、県ベースであったり、国ベースであったりととっているの、対比自体は可能です。今後、資料をお出しする際には、そういった対比も含めて、こちらの委員会には資料として出せればなと考えております。</p>

委員	資料自体は持っているんですよ。だから、これに対比を書いたほうが見やすいかなと思うんですけど。
事務局	素案の中に対比を入れるということですか。
委員	そうですね。この今の資料の中でいいと思います。
事務局	わかりました。 さっき、2点目の質問で言われたのは、どういう意味合いですか。
委員	要は、どんどん少子高齢で人口が減っていますよね。そしてまた、私もそうなんですけれども、だんだん60過ぎると、食が減ってきますよね。多分、40、50のときの2割ぐらいは減っていると思うんです。そういう中で、農業に関してもこういった目標値を立てていますよね。だから、気になったのは、そういう中で、目標値が何を目標に設定しているのか。人口減少もあると思うんですけど、単なる数字だけの上乗せというか。この全体というのが、大分市、県を含めて、そういう中で地産地消できる数字なのか。それとも、県外とか海外に出していく数字なのか。
部会長	生産量と、需要と供給がどうなっているのか。要するに、その目標値をもとに生産量を立てているけど、消費のほうが減っている、目標値は消費の減少を見込んで設定しているのか市外での消費も見込んで設定しているのかということですか。
委員	そうですね。
部会長	目標達成したけれど、余った場合はどうするのかということですね。目標達成しましたが、その消費は大分市内ではできません、それならば市外に出すとか県外に出すとなってくる、その辺をどうするかです。考えながら目標値をつくっているんですか。
委員	早く言えば、市の財政のためにこういう数値目標を上げているのかということですね。
部会長	そこは、すぐに回答するのは難しいでしょうから、次回返答してください。ほかによろしいでしょうか。
委員	関アジ・関サバって、若い人からしたら、あまり食べたことがなくて。大分県の食で何があると言われて、関アジ・関サバと言うんですけど、実際はよくわからないんです。何となく、おいしいよとは言いますが、誇れるわけではなくて、若い人たちにとっては大分のイメージとしてはあるけど、実際は身近に感じていないんです。関アジ・関サバの魅力が大分の若者が知らないと、県外の人には魅力と思わないかなと思います。

委員	<p>イメージブランドなんですよ、だから、若い人は知っている。全国でアジ・サバのブランド品というと、関アジ・関サバという名前は知っているけど、食べたことはない。もう27年、東京に出し続けていますけど、東京から来た人にはまだ食べたことがないという人もいます。だから、基本的に、関アジ・関サバのブランド品は贈答品です。都会の裕福な人が食べましたって話なんですよ。</p>
部会長	<p>私も思うけど、佐賀関で揚がったから関アジ・関サバなんだけど、あの周辺で揚がったものは、味がものすごく違うかということ、そんなことはないですよ。</p>
委員	<p>そうなんです。定義が違うだけなんです。言われるように、佐賀関から揚がった物だけです。漁師さんがただ釣っても、関アジ・関サバじゃないんです。漁師さんが釣ったアジ・サバが佐賀関から出ると、関アジ・関サバなんです。だから、別なところに出したら違う、品物は同じでも。</p> <p>そこで、一つのブランドとしては知っているんだけど、大分県民としての理解というのがそこまでない。だから、遠方から来た人も、名前は知っているけど、地元の人にどんな物が聞くとわからない。ただ、名前だけしか違わない。そこが佐賀関の持っているブランドの問題なんです。県民、市民が、大分市のブランドになっていますけど、それを知らない。だから、来た人に説明できないというのが現状です。</p> <p>今は、来ることを望んでいます。来てもらって、そのブランド商品がどんなものかというのを現場で見てもらって、理解してもらおうという部分を今やっています。今、佐賀関がやっているのは周知で、ブランドの内容の説明というのが、今、佐賀関の現状です。全国に知られているのは名前だけです。それを食べたという日本人のブランド意識だけです。それで高く流通しているというのが現状です。</p>
部会長	<p>同じ海から揚がればブランドがついていなくても一緒ですよ。</p> <p>正直、我々も関アジ・関サバはそんなに食べたことはない。やっぱり高くてね。でも、そういうのを学生、若い人たちに食べさせる機会というのをつくったほうがいいかもしれないね。</p>
事務局	<p>給食で関アジのフライが出てきます。刺身はさすがに出せません。</p>
部会長	<p>そうですね、刺身は出せない。</p>
委員	<p>最初に学校給食で、マンモス校に1回出したことがあります。700~800出して、食べ残しは1桁です。それだけ臭みがない。もともとの品質、素材を生かすつくり方をしました。</p> <p>だから、先ほど言ったように、消費者向けの商品をつくらないと認めてもらえない。ただ単に名前だけつけて出して、おいしくない、ほかのと同じという話になると、次からの消費はない。だから、生産者として、これからつくるものを継続的に流通していくためには、そこに、ひとつのこだわりというものをつくって生産していくと。1次産</p>



<p>部会長</p> <p>委員</p> <p>部会長</p> <p>事務局</p> <p>部会長</p>	<p>業というのは、つくり上げること。工業は生産するものなのですが。いつも例えているのは、外国のブランド品と一緒に。カバン、時計、財布とかありますけど、日本人はああいうのを好むんですね、ブランド品ということで。そこにはひとつのこだわりがあって、ひとつのつくりに対する信念というか、こだわりがあって出している。それを評価するのが消費者であり、ブランドとして継続して使う。それを日本人というのは、どこのブランドを持っているとか買ったとかいうものが、日本人のブランド志向になっていると思います。だから、佐賀関もそういうものを出していく。</p> <p>ただ、釣る分を出していくのではなく、物をつくり上げるという部分がブランド維持かと思っています。ただ単につくって出すんじゃなくて、やっぱり一つの商品をつくり上げるということで、どういう手間をかけて出していくか、つくり上げるかという部分の生産意識というのは大事だと思います。それをつくって出して、消費者、卸、お店から評価を受けることによって、再度注文が来るのがひとつの流れ、商売、事業として成り立つことだと思います。それに近いことでできると、安定した事業になり、収入ができることにより、後継者もできると。</p> <p>いい循環に変わりますからね。</p> <p>それが大事だと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それじゃあ、事務局、整理してまとめてください。</p> <p>それでは、本件の整理をさせていただきます。</p> <p>まず、目標設定についてですが、コンテナ数という量的な目標設定に現在なっている分を、金額を目標として考えてもいいのではないかとということで、付加価値等を考えた目標設定というのをしていくのも一つ、これから事務局で検討させていただきたいと思います。</p> <p>また、目標設定の金額について、地産地消と言いますか、市内での消費のみを考えて目標設定しているのか、それとも、需給バランス、つまり、外に出すことも考えた上での目標設定になっているかといった質問については、次回以降にまた回答をさせていただきたいと思います。</p> <p>あと、流通だけではないのですが、商品の付加価値やニーズに即した販売など、産業全般として、例えば、関アジ・関サバを大分でしか食べられないというような付加価値の設定によって観光客を誘致する取組について、観光分野に記載するのか、どこに記載するのかというところを検討させていただきたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p> <p>以上の取りまとめでよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p>
---	--

<p>部会長</p> <p>事務局</p>	<p>それでは、その他、何かありませんでしょうか。</p> <p>それでは、第4回、次回の産業部会の開催日時についてご案内をさせていただきます。日時につきましては、10月28日水曜日の午前9時30分から、本日と同じ時間ですが、開催いたしたいと思います。</p> <p>場所につきましては、本日まではこちらの大会議室で開催をしておりましたが、次回から、隣の建物のアートプラザの2階の研修室で開催いたしたいと思います。場所が変更になってしまいました申し訳ございませんが、よろしくお願いいたします。</p> <p>また、委員の皆さんのご出席をもちろんお願いしたいところではございますが、要職に就かれています皆様ですので、なかなか出席がかなわないこともあろうかと思えます。また正式文書は後日発送いたしますが、ご欠席等の場合は、事務局にお電話等でお知らせいただければと考えております。また、欠席する場合に事前にご質問等あれば、そこで伺って、回答をさせていただくこともできますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>部会長</p>	<p>今の連絡事項について、質問はありませんか。</p> <p style="text-align: center;">(なしの声)</p>
<p>部会長</p> <p>事務局</p>	<p>特になければ、事務局にお返しいたします。</p> <p>部会長さんには議事進行していただきまして、大変ありがとうございました。</p> <p>これもちまして、第3回の産業部会を終了したいと思います。本日は誠にありがとうございました。</p>